

## 磐梯山の火山活動解説資料（平成 29 年 11 月）

仙台管区気象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2、図 3-①）

剣ヶ峯に設置している監視カメラによる観測では、山体北側火口壁の噴気の高さは 50m 以下で、噴気活動は低調に経過しました。櫛ヶ峰に設置している監視カメラによる観測では、沼ノ平で弱い噴気が認められました。

#### ・地震や微動の発生状況（図 3-②～⑥）

火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されていません。

#### ・地殻変動の状況（図 4、図 6）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図 1 磐梯山 山体北側火口壁の噴気の状況  
(11 月 19 日)

- ・ 剣ヶ峯（山頂の北約 7 km）に設置している監視カメラの映像です。
- ・ 実線赤丸で囲んだ部分が山体北側火口壁からの噴気で、この時観測された噴気の高さは 30 m です。



図 2 磐梯山 沼ノ平周辺の状況（11 月 13 日）

- ・ 櫛ヶ峰（沼ノ平の北東約 600m）に設置している監視カメラの映像です。
- ・ 点線赤丸で囲んだ部分が、沼ノ平の弱い噴気です。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（[http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成29年12月分）は平成30年1月12日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院及び東北大学のデータも利用して作成しています。本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 29 情使、第 798 号）。

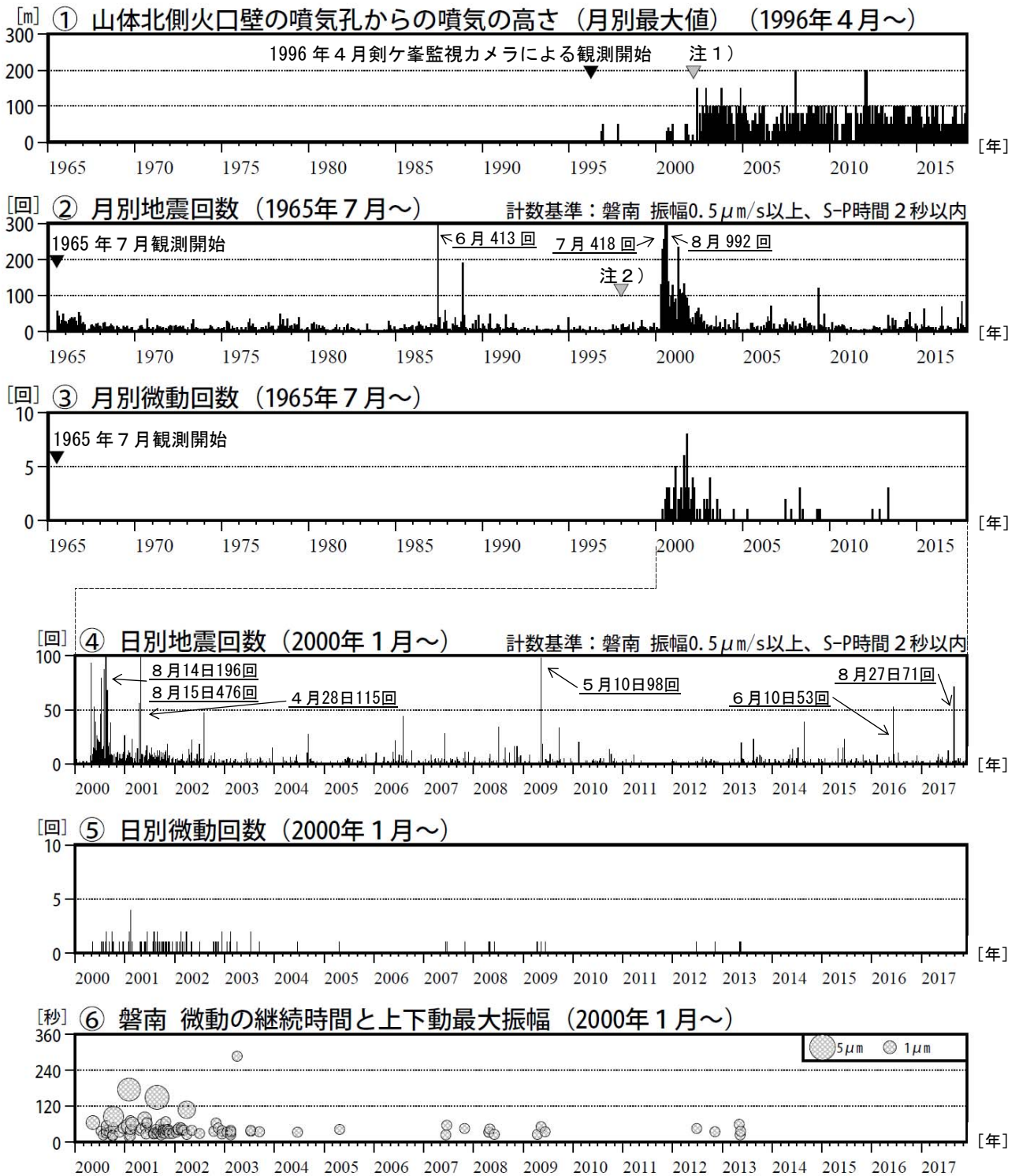


図3 磐梯山 火山活動経過図 (1965年7月～2017年11月)

- ・ ①注1) 2002年2月以前は定時(09時、15時)及び随時観測による高さ、2002年3月以後は24時間観測による高さです。
- ・ ②注2) 1998年より計数基準をS-P5秒以内からS-P2秒以内に変更しました。

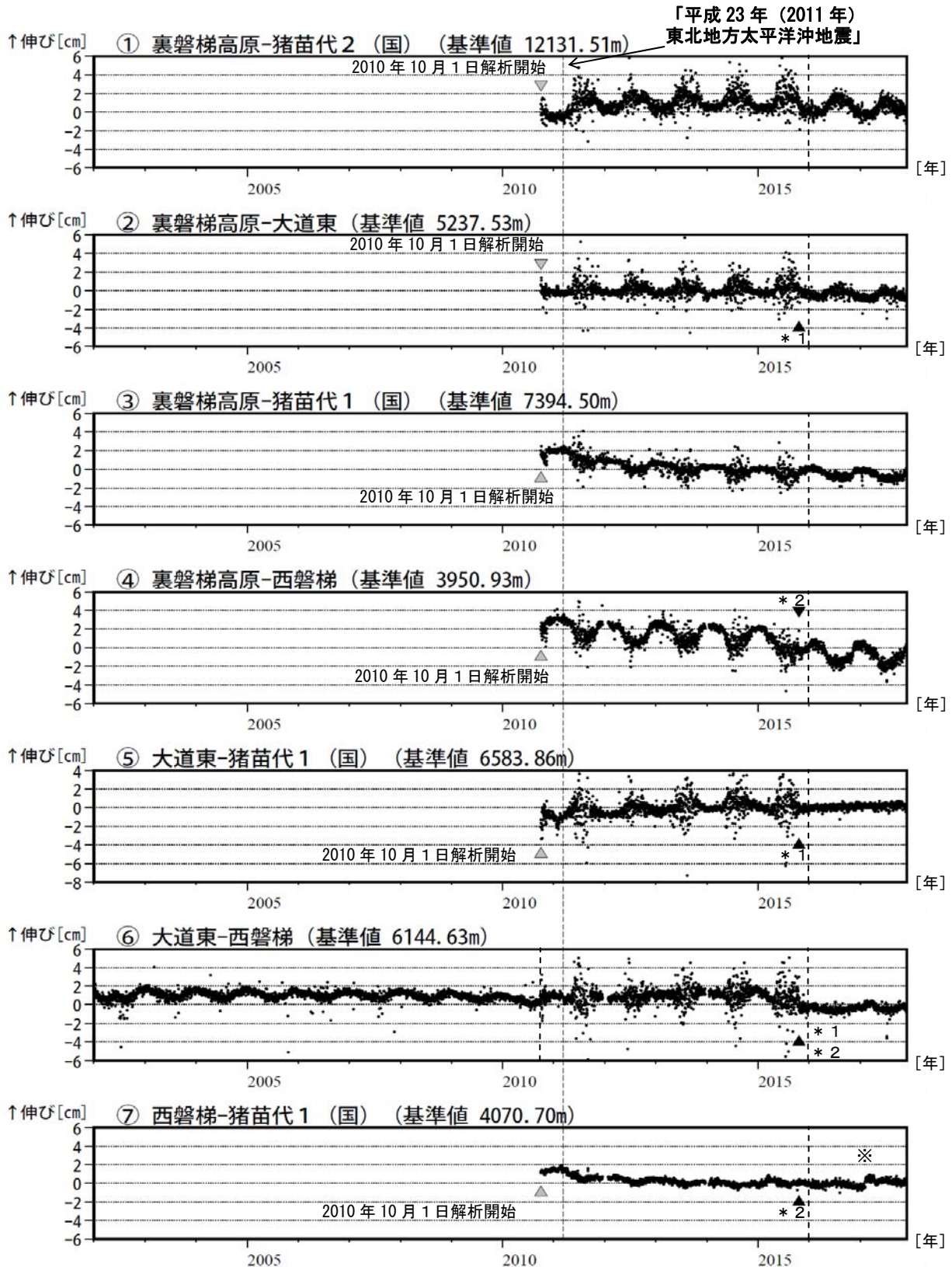


図 4 磐梯山 GNSS<sup>1)</sup> 基線長変化図 (2002 年 1 月~2017 年 11 月)

- ・ 2010 年 10 月及び 2016 年 1 月に、解析方法を変更しています。
- ・ 「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・ ①~⑦は図 6 の GNSS 基線①~⑦に対応しています。
- ・ グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・ 各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。
- ・ \* 1 : 大道東観測点、\* 2 : 西磐梯観測点の機器更新及び移設を行いました。
- ・ (国) は国土地理院の観測点を示します。

※西磐梯観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。

1) GNSS とは Global Navigation Satellite Systems の略称で、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示します。

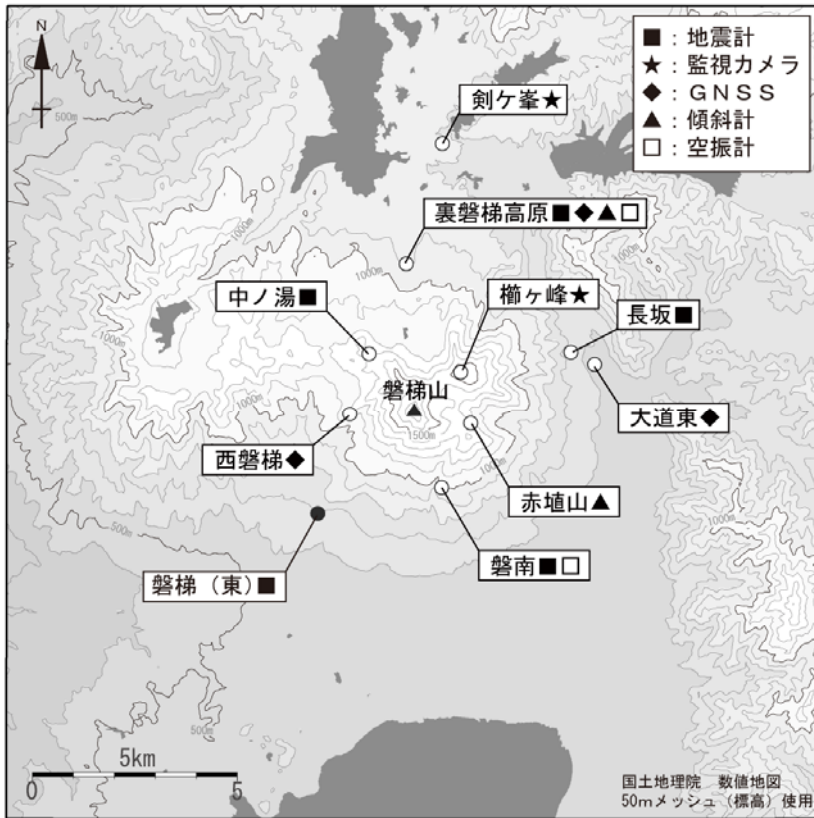


図5 磐梯山 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(東) : 東北大学

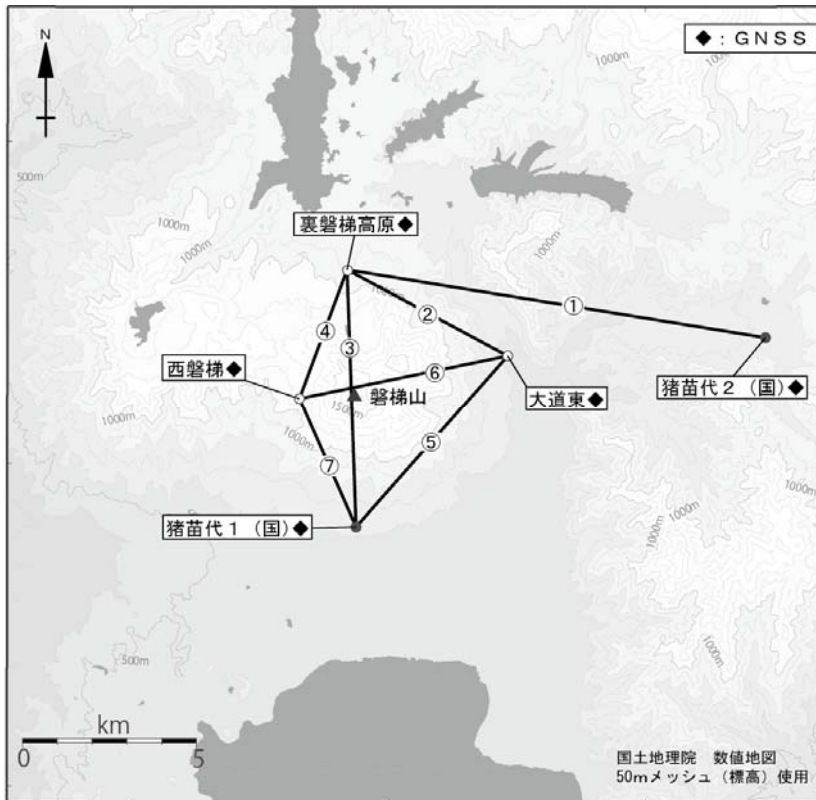


図6 磐梯山 GNSS 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院